



国内でできる国際協力を始めてみたい

STEP 2

国際協力推進員に相談してみる

>>事例はP28へ

世界の貧しい人々のために自分に何ができるだろうか。そうした人々と国際協力をつなぐ窓口として、各都道府県の国際交流協会などに配置されているのが国際協力推進員。青年海外協力隊OB/OGがほとんどで、それぞれの経験を生かし、個人からNGOや大学、自治体まで、地元市民の国際協力をサポートしている。

国際協力推進員 JICA で 検索

「世界の笑顔のために」プログラム

昔使っていた楽器やスポーツ用品が押し入れに眠っている。途上国で必要とされている教材や福祉関連用品、スポーツ用品、楽器などを、派遣中のJICAボランティアが世界各地に届けてくれるこのプログラム。贈られた物品を手にして喜ぶ現地の人々の写真が、配達人であるJICAボランティアを通じて物品提供者に送られてくることもあり、プログラム参加者との間に交流も生まれている。年2回募集。

世界の笑顔 JICA で 検索

DATA：2008年度の送付数1万983点

JICA基金

>>事例はP22へ

時間がなくても、何かできないだろうか。そんな人には、一口100円から※受け付けているJICA基金。「世界の人びとのためのJICA基金」と「JICA基金(アフリカ支援)」があり、世界の貧困削減、医療・教育支援、環境対策に活用される。申込方法は、JICA寄付サイトまで。
※携帯Eddyのみ。支払方法によって一口の金額は異なる。

JICA 寄付 で 検索

DATA：2008年度の寄付総額2,216万9,540円

ジュニア地球案内人

地球ひろばの展示を分かりやすく解説したり、国際協力に関する相談に乗ってくれたりする「地球案内人」。大学生がその業務を春・夏休みに体験できるのが、「ジュニア地球案内人プログラム」だ。詳しくはJICA地球ひろばへ。



海外で国際協力をやってみたい

STEP 3

草の根技術協力事業

>>事例はP16へ

途上国の人々の生活改善や生計向上に一役買いたい。そんなNGO、大学、自治体、公益法人などがそれぞれの経験や技術を生かし、JICAと共同で行うのが、草の根技術協力事業。自治体なら地域提案型、国際協力を始めたばかりのNGOなら草の根協力支援型、経験豊富なNGOなら草の根パートナー型に提案・申請しよう。「途上国から多くのことを学び、自分たちが成長するきっかけになっている」という声も多く、地域活性化の源にもなっている。詳しくは最寄りの国内機関へ。

草の根 JICA で 検索

DATA：草の根技術協力事業の実施団体数356団体(2008年3月現在)

JICAボランティア

(青年海外協力隊/シニア海外ボランティア)

>>事例はP18へ

自分の持っている技術や経験を途上国の人々のために生かしたい。熱い志を持った日本人を途上国に派遣するのがJICAボランティア。派遣期間は原則2年。1年未満の短期ボランティアもある。募集職種は多岐にわたり、自分のスキルや関心に合わせて応募できる。参加資格は、青年海外協力隊は20~39歳、シニア海外ボランティアは40~69歳。現在勤めている企業や官公庁、学校などの所属先に身分を残したまま参加する「現職参加」のためのサポートも行っている。

協力隊 JICA で 検索

DATA：派遣中の隊員2,383人
うち男927人、女1,456人(2009年3月現在)

人材育成研修

国際協力に貢献する人材を育成するため、JICAではさまざまな研修を実施している。

・国際協力担当者のためのPCM研修
自治体や大学、NGOなどで、国際協力・国際交流の実務を担う人々を対象に、国際協力に関するプロジェクトの計画や評価の手法を教える参加型研修。

・組織力アップ! NGO人材育成研修

>>事例はP20へ

NGOの組織強化に必要なスキルを身につけたい若手スタッフのために、「プロジェクトマネジメントコース」、「組織マネジメントコース」の2コースを設置。最後にアクションプランを作成し、JICAがその取り組みをサポートする。詳しくはJICA地球ひろばへ。



国際協力の経験を日本で生かしたい

STEP 4

JICAボランティアなど国際協力の経験は、帰国後に日本の地域社会や自分のキャリアの中でも生かしていくことができる。例えば、異国で学んだ文化や言葉、感じた苦勞を、日本で暮らす外国人のサポートや国際的な視野を持った人材育成の参考にしたり、問題を把握し解決する力を地域活性化に役立てたり。その取り組みは、企業の社会的責任(CSR)や環境保全など多岐にわたる。帰国ボランティアの活動は、JICAのホームページまで。

帰国 ボランティア で 検索 >>事例はP18へ

JICAの主な市民参加メニュー



特集
はじめてみよう!
あなたの国際協力

世界のために自分も何かやってみたい。開発途上国の問題や国際協力に関心がある人のために、JICAはさまざまな参加メニューを用意している。個人の関心・経験に応じた国際協力を4つのSTEPに分けて紹介する。

JICA 市民参加 課題別指針で 検索

地球温暖化や新型インフルエンザの流行など国境を越えた課題が増え、世界の国や地域、人々はあらゆる面で日本とも密接にかかわり合うようになってきている。食料やエネルギーなど多くの資源を海外に依存する日本。開発途上国が直面するさまざまな課題は、いまや私たちの問題でもある。こうした問題から目を背けず、解決するために共に行動していかなければならない。

「国際協力を日本の文化に」を理念に掲げるJICAは、途上国と日本人をつなぐ懸け橋として、日本人が国際協力をより身近なものと感じ、気軽に参加できるような仕組みづくりをしている。より多くの人に国際協力のプレーヤーとして活躍してもらい、多様化する途上国のニーズに応じていくため、市民の国際協力に対する関心度に合わせ、さまざまな参加メニューを用意。利用者が年々増えている。さらに、生まれ育った地元を見つめ直すきっかけにもなる国際協力は、途上国のみならず、日本の地域社会の活性化などにもつながっている。

JICAは2008年9月、国際協力における市民参加の課題別指針を発表、日本国内での取り組みの現状・動向を踏まえたこれからのJICAの市民参加協力の方向性を打ち出した。課題別指針の全文は、JICAのホームページからダウンロード可能。



開発途上国の課題をもっと知りたい

STEP 1

JICA国際協力出前講座

国際協力の経験者から生の話を聞きたい。そんな人は、青年海外協力隊OB/OGやJICA職員、途上国から来日中のJICA研修員などを講師として自分の学校や町の公民館などに呼んでみよう。それぞれの個性が生かされた講座を受け、「途上国の文化や生活、問題、日本の国際協力などがよく分かった」と評判も高い。詳しくは最寄りの国内機関へ。

DATA：2008年度は全国で2,062回実施、約20万人が受講

JICA地球ひろば(東京) なごや地球ひろば(愛知)

>>事例はP12へ

見て、聞いて、触れながら、途上国のことを知りたい人は、ぜひ東京と名古屋にある「地球ひろば」へ。途上国の課題などを分かりやすく紹介した体験型展示やセミナー、イベントなどが行われている。また、アジアやアフリカなどの料理が手ごろな価格で味わえるカフェを併設。「身近な「食」から異文化を知ることができてうれしい」とリピーターも多い。そのほか、横浜や兵庫をはじめ全国各地のJICAの国内機関には情報スペースがあり、イベントも実施されている。

JICA地球ひろば：www.jica.go.jp/hiroba/
なごや地球ひろば：www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/

DATA：JICA地球ひろば来館者数約26万7,000人(2006年4月~09年5月現在)

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

>>事例はP14へ

もうすぐ夏休み。中学生・高校生にぜひ応募してほしいのが、このエッセイコンテスト。ニュースや学校で習ったこと、自分自身の体験などをもとに、国際協力への思いをエッセイにまとめてみよう。上位入賞者に贈られる途上国への研修旅行に参加した人の中には、現地で奮闘する日本人の姿に刺激され、将来、青年海外協力隊など国際協力の世界を志す人たちもいる。応募時期は毎年夏休み期間中。

DATA：2008年度の応募総数7万5,010点
うち中学生の部5万1,493点、高校生の部2万3,517点

教師海外研修

世界のこと、もっと子どもたちに知ってほしい。開発教育・国際理解教育に関心のある小・中・高校の教員を対象に、JICAは国際協力の現場を視察する研修を実施。帰国後は、学校での授業や教材作成を通じて、研修で得た知識や経験を子どもたちに伝えていく。先生から話を聞くことは、子どもたちが途上国や国際協力を身近に感じ、自分の生活を見つめ直すきっかけとなっている。詳しくは最寄りの国内機関へ。

開発教育指導者研修

開発教育・国際理解教育を実践したい。そう考える小・中・高校の教員、自治体やNGO/NPOの職員、青年海外協力隊OB/OGなどに、開発教育を授業で行う上で役立つ方法を教えてくれる研修。その内容は、楽しく世界のことを学ぶワークショップや先駆的な学校の取り組みなどさまざま。初級・中級・上級編がある。詳しくは最寄りの国内機関へ。

国際協力実体験プログラム

国際協力を体験してみたい中学生・高校生・大学生にオススメのプログラム。1泊2日の合宿形式で、世界の人々の暮らしを体験する国際理解ワークショップや調べ学習などを通じて、途上国の問題や国際協力について理解を深める。プログラムがきっかけとなり、独自の取り組みを学校単位で始めている学生たちも。詳しくは最寄りの国内機関へ。

STEP1は JICA地球ひろば 開発教育 で 検索 (国際協力実体験プログラムを除く)